

サクラだより 4 で東京や新潟などでは「春一番」が吹いたとのニュースをお伝えしましたが、大阪管区気象台も 3 月 12 日に近畿地方でも「春一番」が吹いたと発表しました。低気圧が発達しながら日本海を北東に進み、南寄りの風が強まり、和歌山市で 13.9m、彦根市で 11.6m など、各地で 8m を超える風が吹き、気温も上昇し、近畿ではおおむね 4 月下旬から 5 月初旬の気温を記録となった。「春一番」は昨年吹かなかったのが 2 年ぶりの観測となったとのこと。同じ紙面では 12 日夜、奈良東大寺二月堂での「お水取り」行事が執り行われたとの記事が見られました。最近では地球温暖化の所為か、春の訪れは早くなって来ているが以前は関西では「お水取り」がすれば本格的な春になると言われていたのですが・・・。

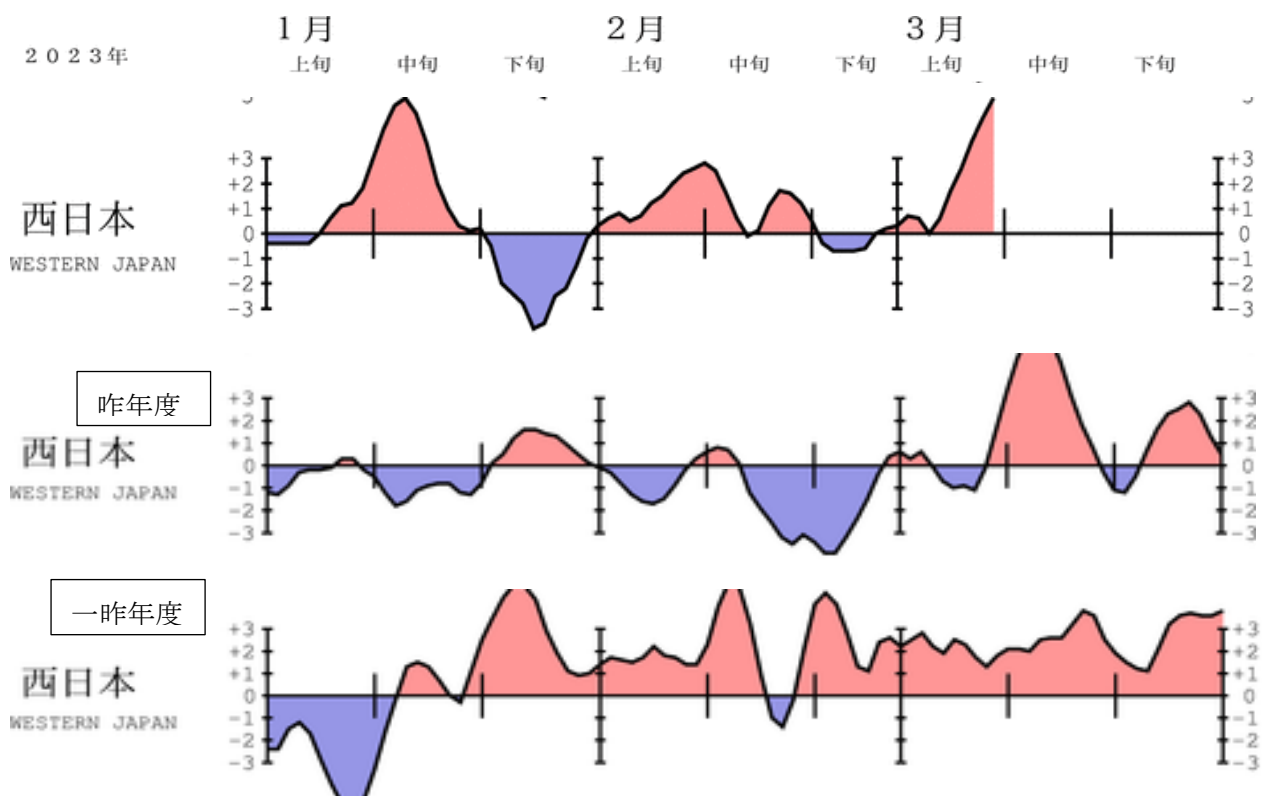
ともかく今年も本格的な春に入ったことには間違いのない事実でしょう。

本報でも例によってサクラの開花に大きく影響すると考えられる最近の気温の経緯・前年度との比較。発表の度、早めとなって来ている今期の開花予想。近所歩きで観ているサクラ類の状況、頂いた情報、等で纏めてみます。

1. 今年の冬季の気温の経過。(前報の改定)

1-1. 西日本の気温推移 (平年差・昨年・一昨年度と比較・新平年値に準拠・気象庁発表抜粋)

1 月から最近までの西日本地区 (近畿・中国・四国・九州) の気温の経緯は下図。



*今年の冬季は上図のように寒暖の振れの幅が大きな年となって来ていましたが、3月に入ると気温は急上昇、4月並みとなって来ています。冬季はほぼ平年並み、「休眠打破」も平年並みと見られます。3月の気温の様子から昨年同様にサクラの開花は平年より早めとなりそうです。今年の冬季は十分冷え込み、「休眠打破」は順調、ラニーニャ現象の消失した3月以降は暖かい日が続くので開花は平年より早い見込みと各気象会社も開花予報日を早めてきている。気象会社の今年の気象の読み、今後の見込みの例を挙げておきます。なお、今年の大阪近郊の冬季の気温については本年第3報で詳述しています。

2. 今年の「サクラ（ソメイヨシノ）」の開花予報—5 日本気象協会 3月9日

3月に入り、全国的に気温が高く推移しています。特に、ここ数日は九州から東北にかけて、最高気温が20度前後の春の陽気となっており、今後も平年より気温が高い状態が続く見込みです。このため、開花、満開ともに平年より早いところが多いでしょう。

・今年の開花は、3月16日に東京と福岡、高知からスタートするでしょう。17日には横浜、宮崎など、18日には名古屋、熊谷などで開花する見込みです。3月末までに九州から関東にかけて広く開花し、北陸や長野、東北の一部地域でも3月中に開花するところがあるでしょう。桜前線は4月下旬に津軽海峡を渡り、4月24日に函館、26日に札幌で開花する見込みです。

・3月中は高温傾向が継続する見込みのため、満開日も全国的に平年より早くなるでしょう。3月下旬には九州から関東の広い範囲と、北陸や長野、東北の一部で満開となり、東京では3月24日に満開となる見込みです。関東や北陸、東北では、平年より10日前後早く満開を迎える地点がありそうです。函館や札幌では、4月下旬に満開を迎えるでしょう。

・この冬(12月～2月)は、たびたび強い寒気が流れ込みました。全国的に厳しい寒さの日も多く、桜の花芽の休眠打破※は順調に行われたとみられます。3月に入り、1日には関東地方で「春一番」が吹くなど、春の訪れを感じさせる陽気が続いています。特に、ここ数日の季節を先取りするような暖かさは、桜の早期開花を後押しするでしょう。既報のように、1月後半から、「気象予報」会社などから、本年度の「ソメイヨシノ」の開花・満開の予報が出されて来ています。本報では3月14日に発表された「ウエザオニユース」社の近畿地区の開花予報を転記しておきます。参考にして下さい。

近畿地方の開花・満開予想日は下記の通り（3月14日改定）

近畿地方	地点	開花予想日	平年差 (日)	昨年差 (日)	満開予想日	平年差 (日)	昨年差 (日)
大阪府	大阪市	03/22	-5	-1	03/30	-5	±0
奈良県	奈良市	03/22	-6	-3	03/30	-5	-1
京都府	京都市	03/22	-4	-2	03/30	-5	±0
滋賀県	彦根市	03/28	-4	-3	04/05	-3	-1
兵庫県	神戸市	03/24	-3	-1	04/01	-4	±0
和歌山県	和歌山市	03/20	-4	-4	03/28	-6	-1

3. ヒカンザクラ

奄美沖縄地区のヒカンザクラの開花状況は前報どおりですが、開花が大幅に遅れた石垣島での満開日はまだ記録されていません。開花から 40 日以上たっていますが・・・、今年は満開には至らない可能性大です。満開が記録されないのは 2020 年に続いて 2 度目となるのですが。

先日の科のバス旅行では、和歌山県の植物公園入口で満開のヒカンザクラが見られましたが、私の観察している芦屋川河岸の公園の 5 本の内 2 本は 3 月 12 日に満開となりました。後の 3 本も 8, 9 割は開花しており、気象庁の基準では満開と言っても良いでしょう。

	開花日	満開日
2020 年	2 月 10 日	2 月 25 日
2021 年	2 月 21 日	3 月 5 日
2022 年	3 月 3 日	3 月 15 日
2023 年	3 月 4 日	3 月 12 日

*今年、開花～満開までの日数が短かったのは、多分この期間の気温が高かったからと考えられます。

4. カワズザクラ (河津桜)

前報ではカワズザクラの植えられている芦屋市・東山公園の特徴（高木・低木混成林）とこの公園内に植えられた 50 本の樹の様子を詳述しました。また、北山緑化植物園での同種の状況から、この種に関しては完全に「陽樹」、直射日の入らないような場所では花芽が形成されないと書きした。

私が観察の対象としている標準木は広場の北側に植栽され、南面に障害となるような樹木もないので好条件。今年も右のように 3 月 9 日には枝一杯に紅色の花



をつけてくれました。でも、同じ日、山林内に植えられたカワズザクラは3年間も経つのに僅か2輪の花しか咲かせていませんでした。

下記に、ここ4年間の標準木の開花と満開日の記録を挙げておきました。カワズザクラは、上記のヒカンザクラと同様に休眠打破は秋季に終わっており、開花は冬季の気温の高低に依存しています。



※芦屋市東山町・東山公園及び宮川沿いの河津桜 開花・満開 観察木のデーター

東山公園

	開花日	満開日
2020年	2月10日	2月25日
2021年	2月21日	3月5日
2022年	3月3日	3月14日
2023年	2月25日	3月9日

参考・宮川沿いM

開花日	満開日
	3月3日
3月5日	3月15日
3月1日	3月10日

5. ミザクラの開花

*セイヨウミザクラ

このサクラの植えられていることを知ったのは昨年。シナミザクラと同じ芦屋市・翠ヶ丘町のマンションの敷地内に植えられています。昨年は気付いたときには既に満開となっていました。今年は、近くなので日参、開花が3月5日、満開が3月8日朝、と花期が短く、これは次のシナミザクラと同じ傾向でした。

*シナミザクラ

一方2020年から、開花を記録しているシナミザクラの方は上記のセイヨウミザクラに入れ替わるように開花しました。ここ4年間の開花記録を並べておきます。

	開花日	満開日
2020年	3月4日	3月9日
2021年	2月27日	3月3日
2022年	3月12日	3月15日
2023年	3月8日	3月11日

・花期が非常に短い、満開後2,3日で散る。自家受粉で結実するので花期は短くても良い？

・ミザクラ系は単純に冬季温度の高低だけには依存していない。休眠打破は冬季、しかもほぼ一斉開花することから、休眠打破の期間も短いと考えられます。



6. ケイオウザクラ

まず「ケイオウザクラ（啓翁桜）」とは・・・名前の由来や、誕生、樹の特性については2021年度の「サクラだよりー4」に詳述していますのでそちらをお読みください。シナミザクラとヒカンザクラの交雑種と考えられます。「サクラ切る馬鹿・・・」と言われていますが、本種は枝の伸びがよく直立型、枝を切り込んでも弱ることもないので、もっぱら正月や慶事に生けられるサクラとして、切り花用に栽培されています。特に、栽培に力を入れているのが山形県で全国の出荷量の80%を占めると言われています。冷蔵庫や温室を利用して花期を調整、正月花～3月まで出荷されるようです。

最近は庭木としても人気があるようで、私の近くでは3ヶ所ほどで路地植えとなっています。こちらはシナミザクラの性質を受け継ぎ、開花から満開までは短期間にほぼ一斉開花。ただし、開花後の花もちが良いので庭木向きにもなっているのでしょう。

右のサクラの開花記録です。

芦屋市・翠ヶ丘町

	開花	満開
2021 年	2 月 28 日	3 月 5 日
2022 年	3 月 13 日	3 月 15 日
2023 年	3 月 11 日	3 月 13 日



7. ソメイヨシノの切り枝テスト

*失敗談

先に、当方で例年通り開花に先立ち、休眠打破の時期を推定する目的で2月6日、及び2月11日に今年の調査対象木から枝を切り取り、室内で花瓶に生けて放置、その後の変化を観るテストを実施していることをお知らせいたしました。このテストでは「休眠打破」されていない「芽」には全く変化が現れず、「休眠打破」されたている「芽」については右の写真のように、下の枝のように芽が膨れ、やがて何個かは上の枝のように完全とは行かないまでも花が開きます。

今年のテストでは2月6日採取の枝では2月末になっても変化が現れず、2月11日採取の枝ではいくつかは膨れが生じたもののそこ



で停止、開花には至りませんでした。

枝を引き上げて調べてみると、枝の浸漬部がゲル状物質にコーティングされるという状況が発生していることが分かりました。一昨年まではこのテストは水道水をそのまま使い、昨年度は開花に影響あるかとショ糖を溶かした水を使いました。この結果、開花した花の様子から少しは糖の効果があったかな？の知見。そこで、今年は「切り花」用の栄養・抗菌剤？（切り花を長持ちさせるという）として市販されている薬剤を使って見ました。これが失敗の基、原因は不明ですが発生したゲル化物によって道管がつまり栄養分どころか揚水さえ止まってしまったようです。この種のテストは水道水だけでやるべきと痛感です。「覆水盆に返らず」のお粗末。

*When one door shuts, another opens.

私の切り枝テストによる「休眠打破」予測は完全に失敗。しかし、斉藤さんから右の写真と共に、切り枝テストの結果をお知らせ頂いています。

切り枝の採取は2月23日、砂糖など使わず純水に生けて、室温をエアコンで20～21℃に保たれた結果、3月9日に右のように開花が見られたとの報告です。この結果をお借りして、京都地区の「休眠打破」の期日を、既報の400℃・Day法を使って算出してみます。

・まず、切り枝を生けられてから開花日までは13日間、この間に加えられた温度は260℃・Dayとなります。400℃・Dayとの差、140℃・Dayが「休眠打破」以降、枝採取までに受けた外気累積温度となります。この、温度を京都の本年2月の月平均気温、6.0℃で評価すると23日～24日分、細かく半旬の平均温度で評価しても23日分となります。

この結果、この切り枝テストからは、京都地区の「休眠打破」日は2月1日前後と推定されます。

正に、「捨てる神あれば拾う神あり」で、本項目を纏めることが出来ました。感謝！



*今年のサクラ開花は当初予想よりはかなり早くなり、3月14日に東京、15日に横浜、16日には岐阜の開花宣言がされて来ています。

皆さまからも、ソメイヨシノの蕾の膨れ状況は勿論、ジンダイアケボノやエドヒガンの開花寸前のお便りを頂いています。私の周りでもヤマザクラの1種が昨日、陽光桜が本日開花、オオシマザクラ、ソメイヨシノも開花寸前に達した個体も出て来ています。忙しくなりそうです。

皆さまの周囲では如何でしょうか。

本報はこれまで。